

【RA レポート】

## 東京国際交流館での生活

### -RA としての取り組み-

#### The life in TIEC : Initiatives as an RA

芝浦工業大学大学院 **菅野 誠**

KANNO Makoto

(Shibaura Institute of Technology)

キーワード : RA、イベント、留学生サポート、東京国際交流館

私は現在、東京国際交流館で RA 業務に携わっています。RA とは、Resident Assistant のことであり、同じ交流館に居住している留学生の研究や生活上の相談にのったり、イベントなどを開催して居住者間の交流促進のために活動しています。この中でも主要な活動となっているのが、イベント業務です。イベントはハロウィンパーティーやクリスマスパーティーなどの 100 人規模のものから、ウォーターフェスティバルや BBQ などの比較的小規模なものまで月に一回ほどあり、多くの留学生に参加してもらうことで、交流館内での親睦を深めてもらう場となっています。

各イベントでは、RA 内で統括を立て、企画の段階から当日の準備、実施までを学生内で行います。もちろん一人で進めていくことはできないので、多くの学生が協力して運営を行い、問題点や課題などが見つければ相談して解決しながら進めていきます。準備は数か月前からはじめ、Facebook やポスター掲示を行い居住者に周知し、必要であれば業者の方と連絡を取り物品の貸し出しをしていただいたり、飲食物の手配を行ったりしています。私自身も入居して間もなく統括を任されたのですが、交流館に入居するまではイベントを企画するというような経験がなく、任されたときは不安でしたが、先輩や同期の協力もあり無事に成功し、留学生にも喜んでもらうことができ、今までにない貴重な経験をすることができました。大変だと感じることも多くありますが、苦労して準備した分、やり遂げたときには大きな充実感を得ることができました。

また、より多くの留学生に参加してもらうため、イベントを開催するために考えなくてはならない大事なものが宗教です。普段日本で暮らしている分にはあまり意識して過ごしてはいないかもしれませんが、交流館内には様々な国籍の方が入居しており、その分だけ宗教があります。お酒を飲むこと

ができない方、豚肉や魚介類などの食事制限がある方など、多くの方がいます。しかし、一つのイベントでこれらすべての条件をクリアすることは難しいので、お酒を用意するイベントもあれば、ソフトドリンクのみ用意するイベントも設け、ケータリングや食事を作って提供する際には、ハラール認証があるものかどうかの確認なども同時に行っています。交流館に入居するまでは知識としてしか知らないものでしたが、準備をしている中で、宗教の多様性を学ぶことができる貴重な体験であると感じました。

また、交流館内には小さな子供を持つ家族の方も入居されています。イベントには単身棟に居住している方が多く参加してくれるのですが、家族棟に住まれている方は参加率が低いのが現状です。そういった家族の方向けに、ウォーターフェスティバルや運動会など、小さな子供がいても参加しやすいような企画を立て、普段あまりイベントに参加しないような層を取り込むことで、積極的な交流を図っています。このようなイベントは6、7月の早い段階に開催することでイベントの雰囲気を知ってもらい、その後のイベントにも参加しやすい環境を作っています。

もう一つ重要なことが、RA だけで完結してしまうようなイベントにならないようにすることです。事前準備についてはRAが行いますが、イベント中には司会を留学生に担当してもらったり、当日の準備から手伝ってもらったり、留学生にも参加してもらえようようなパフォーマンスコンテストを行っています。そうすることで、イベントに単に参加するだけでなく、自身もその一員であると感じてもらえ、より楽しんでもらっているように思います。

こういったイベントの内容をまとめているのが、RA事務局です。事務局は日本人学生で構成されており、イベントの企画・運営から、新規日本人居住者の引き入れ、アラムナイとの交流や、交流館外へ向けたPRなども行っています。それぞれ学校での研究や論文などが忙しい中、協力しあって活動を行っています。

交流館全体に向けたイベント以外でも、フロアパーティーやクラブ活動などの少人数での活動も行っています。フロアパーティーは月に1回ほど開催し、夕食を留学生と一緒に作って食べることで、より親密な交流ができる場として役立っています。普段は忙しくイベントには参加できない留学生などもフロアパーティーのような短い時間であれば参加してくれ、趣味の話から研究の話までいろいろなことを話して親睦を深めています。実際、フロアパーティーでしか会えない留学生もいるので、そういった方にとっても良い機会として参加してもらえていると思います。

夕食は基本的にはたこ焼きや天ぷら、寿司など日本食を用意しているのですが、留学生が自国の料理を作って持ってきてくれることもあり、様々な食文化に触れることもできます。そこから、お互いの国の文化についての話をしたりすることで、今まで知らなかったことを知ったり、日本文化について再発見したりと、ただ食事をするだけでなく学びの場にもなっています。

クラブ活動は、マラソン、フットサル、カメラ、ジャムセッションなど様々なものがあり、それぞ

れ同じ趣味を持った人たちが独自に活動しています。私自身、カメラ、ジャムセッションのクラブに参加しており、予定が合う際に年に数回ほど参加しています。クラブ活動は、少人数で長い時間を過ごすことが多いので、それぞれの趣味について深く話すことができ、イベントとは異なり留学生主体で活動しているものもあり、気軽に参加できるので多くの留学生が所属しています。中でも、カメラクラブでは東京タワーや浜離宮など、日本の観光も兼ねた撮影場所に行き、日本文化に触れてもらう良い機会となっています。

ここまでは交流館内での業務について紹介しましたが、交流館外でも業務を行う場合もあります。私の場合では、研究室に留学生が在籍していることもあるので、その方と研究テーマについて議論をしたり、実験装置の使い方を教えたりと研究に関する話をすることや、それ以外にもスマホの契約方法について、病院への付き添い、観光場所の案内などの生活に関わる話など、普段交流館だけで関わっている留学生よりも深く接することが多くなっています。慣れない日本の生活に不安を感じている方もいるので、できるだけ楽しんで生活を送ってもらえるように努力しています。

留学生とはこういった相談や課題解決だけではなく、一緒に遊びに行くこともあります。映画を見に行った際には最近では、ラグビーワールドカップのパブリックビューイングに観戦しに行きました。その方はラグビー経験があり、日本でのワールドカップ開催を楽しみにしていたので、とても喜んでくれました。周りの方もあたたかく迎えてくれ、良い体験になったかと思えます。

交流館のことを知ったのは、研究室の先輩から教えていただいたのがきっかけでした。その先輩がもともと交流館に入居していたため交流館について教えてくれ、英会話や国際交流に興味があったこともあり、入居しようと決めました。しかし、それまでは一人暮らしをしたこともなく、交流館イベントにも参加せずに4月にそのまま入居したので、はじめのうちは不安も感じていたのですが、先輩方にやさしく迎えていただき、同期にも恵まれてすぐに楽しい生活を始めることができました。RAになってからは、今までより広い視野を持って物事を見ることができるようになったように感じます。ただ日本で暮らしているだけでは分からない宗教の問題や文化の違い、また国の違いだけではなく関わるようになった人も増えたので、人それぞれの考え方を知り、付き合い方を考えるようになりました。また、イベントの企画運営を通して、大学にいただけでは学ぶことができないチームワークや団体行動におけるマナーなどについても触れることができたのはこれからの人生においても生かすことができると思います。こういった学びの面だけでなく、交流館での生活を通して知り合うことができたRA同期や先輩、後輩、留学生とよい関係を築くことができ、とても充実した2年間を過ごせていると思います。